

問1 宮城県の稲作における品種別作付割合の推移を見ると、1991年からそれまでの主要品種が急激に減少し、1994年には新たに普及した「ひとめぼれ」がその品種を初めて上回りました。「ひとめぼれ」に主役の座を譲ることとなった、かつての主要品種として正しいものを次から選びなさい。（2019年 長野県公立入試 類似）

1. ササニシキ 2. コシヒカリ 3. あきたこまち 4. ななつぼし

問2 東北地方の北東部に位置し、農業産出額において畜産の割合が非常に高い岩手県の農業の特色として、最も適切な説明はどれですか。（2017年 兵庫公立入試 類似）

1. 広大な土地を活用した肉用牛や乳用牛などの飼育が盛んで、畜産の産出額が米や果実を上回っている。 2. 庄内平野などの平野部を中心とした大規模な稲作が中心であり、米の産出額が県全体の半分以上を占めている。 3. サクランボやブドウなどの果実栽培に特化しており、県外への出荷額において果実が最大の割合を占める。 4. リンゴの生産量が全国第1位であり、果実の産出額が畜産や米の産出額を圧倒している。

問3 東北地方の北端に位置する県では、ある果実の生産が盛んであり、その収穫量は全国でも圧倒的なシェアを占めています。統計において年間収穫量が40万トンを超え、2位以下の県を大きく引き離しているこの果実はどれですか。（2018年 北海道公立入試 類似）

1. りんご 2. みかん 3. ぶどう 4. おうとう

問4 日本列島の西側に位置する日本海において、南の低緯度側から北へ向かって秋田県沖などを流れる暖流の名称として正しいものを選択肢から選びなさい。（2022年 香川公立入試 類似）

1. 対馬海流 2. リマン海流 3. 日本海流（黒潮） 4. 千島海流（親潮）

問5 東北地方の太平洋側において、初夏から夏に吹く冷たく湿った北東の風による「冷害」を防ぐための農業上の工夫として、最も適切なものはどれですか。（2023年 徳島公立入試 類似）

1. 寒さに強い稲の品種改良を行う 2. ビニールハウスを用いた熱帯果実の栽培に転換する 3. 冬の期間に小麦を作る二毛作を推進する 4. 大規模なダムを建設し、常に高温の灌漑水を確保する

問6 山形県の日本海側に位置する庄内平野が、日本屈指の米どころとして発展した背景には、この地域特有の地形や水資源の条件があります。その背景を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2025年 沖縄公立入試 類似）

1. 最上川がもたらす肥沃な土壌と、奥羽山脈などからの豊かな雪解け水が供給されるため 2. 夏の間も冷涼な偏東風（やませ）が吹くことで、稲の病害虫の発生が抑えられるため 3. 年間を通じて雨が極めて少なく、乾燥した気候が稲の成長に適しているため 4. 最上川の急流を利用した水力発電により、農業用機械の電力を安価に確保できたため

問7 東北地方の太平洋側では、夏にオホーツク海高気圧から冷たく湿った北東の風が吹き込むことで、気温が上がらずに米などの作物の収穫量が減少することがあります。この冷たく湿った風の名称と、それによって引き起こされる災害の名称の組み合わせとして正しいものを、次の中から選びなさい。（2017年 大分県公立入試 類似）

1. 風の名称：やませ、災害の名称：冷害 2. 風の名称：からっ風、災害の名称：干害 3. 風の名称：フェーン現象、災害の名称：塩害 4. 風の名称：季節風、災害の名称：震災

問8 オホーツク海から東北地方の太平洋側へ向かって吹く北東の風「やませ」が、夏の間も長期間にわたって吹き続けた場合、この地域の農業にはどのような影響が考えられますか。（2016年 高知公立入試 類似）

1. 気温が上がらず日照時間も不足するため、稲などの作物の生育が悪くなる冷害が発生する。 2. 乾燥した強い風によって農地の水分が奪われ、農作物が枯れてしまう干害が発生する。 3. 急激な気温上昇をもたらす、農作物が乾燥して品質が低下するフェーン現象が発生する。 4. 大雨を伴う強風が続くため、河川の氾濫によって農地が浸水する洪水被害が発生する。

問9 2013年の農業産出額の統計において、米の割合が34.6%と最も高く、次いで畜産が30.0%を占めている地域の農業的特徴として、最も適切な説明はどれですか。（2016年 岩手県公立入試 類似）

1. 冷害対策などの品種改良を進め、米の単作地帯から畜産や果樹を組み合わせた複合経営への転換が進んでいる。 2. 広大な土地を活用した畜産業が最も盛んであり、産出額の5割以上を豚や肉用牛が占めている。 3. 大消費地に近い利点を生かし、野菜の産出額が全体の4割を超える近郊農業が中心となっている。 4. 平地が少ないため、傾斜地を利用したみかんやぶどうなどの果樹栽培の割合が最も高い。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 ササニシキ	宮城県では長年、良食味米として「ササニシキ」が広く栽培されてきました。しかし、1993年の記録的な冷害などをきっかけに、冷害に弱かったササニシキから、冷害に強く味も良い「ひとめぼれ」への品種交代が急速に進みました。統計上でも1991年以降ササニシキが急減し、1994年にひとめぼれが過半数を超えて逆転しています。
問2	答え 1 広大な土地を活用した肉用牛や乳用牛などの飼育が盛んで、畜産の産出額が米や果実を上回っている。	岩手県は、北上高地などの広大な山地・丘陵地を利用した畜産業が発達しています。東北地方の他県では「米」や「果実（青森のリンゴや山形のサクランボ）」が産出額の首位となるケースが多いですが、岩手県は畜産が農業の中心となっており、産出額の構成において畜産が米や果実を大きく引き離しているのが地理的な特徴です。
問3	答え 1 りんご	設問にある東北地方の北端の県とは青森県のことです。青森県は冷涼な気候を生かしたりんごの栽培が非常に盛んで、日本国内の生産量の約半分以上を占めています。みかんは和歌山県や愛媛県などの温暖な地域、ぶどうは山梨県、おうとう（さくらんぼ）は山形県が主な産地です。
問4	答え 1 対馬海流	日本海を北上する暖流である。東シナ海で日本海流（黒潮）から分かれ、対馬海峡を通過して日本海に入り、東北地方の日本海側を含む沿岸地域の気候や漁業に影響を与えている。同じ日本海を流れるリマン海流は、北から南へ流れる寒流であるため混同しないよう注意が必要である。
問5	答え 1 寒さに強い稲の品種改良を行う	やませによる低温（冷害）から稲作を守るため、東北地方では「ひとめぼれ」などに代表される、低温に強く味の良い品種の開発（品種改良）が盛んに行われてきました。また、育苗期に苗を低温から守る工夫なども組み合わせ、気象条件に左右されにくい農業を目指しています。
問6	答え 1 最上川がもたらす肥沃な土壌と、奥羽山脈などからの豊かな雪解け水が供給されるため	庄内平野は、最上川の下流に広がる沖積平野です。米作りには大量の水が必要ですが、この地域では冬の間に山に降り積もった雪が春に溶け出し、最上川などを通じて平野に潤いをもたらします。この「雪解け水」と、川が運んできた栄養豊富な土壌という自然の恩恵に加え、大規模な灌漑施設の整備といった人の努力が組み合わせ、一大稲作地帯となりました。なお、「やませ」は東北地方の太平洋側に冷害をもたらす要因であるため、日本海側の庄内平野には当てはまりません。
問7	答え 1 風の名称：やませ、災害の名称：冷害	オホーツク海高気圧から吹き込む冷たく湿った北東の風は「やませ」と呼ばれます。これが夏に長期間吹き続けると、東北地方の太平洋側を中心に日照不足や低温が続き、農作物の成長が妨げられます。特に主食である米が大きな被害を受けるこの災害を「冷害」と呼び、日本の東北地方における地理的課題の一つとなっています。
問8	答え 1 気温が上がらず日照時間も不足するため、稲などの作物の生育が悪くなる冷害が発生する。	やませは冷たく湿った空気を運んでくるため、濃い霧が発生しやすく、日照不足と低温をもたらします。特に開花期や結実期の稲にとって、この低温は致命的なダメージとなり、収穫量が著しく減少する「冷害」を引き起こします。かつて東北地方では、このやませによる飢饉が何度も発生しました。
問9	答え 1 冷害対策などの品種改良を進め、米の単作地帯から畜産や果樹を組み合わせた複合経営への転換が進んでいる。	東北地方はかつて米の単作地帯でしたが、冷害の克服や生産調整（減反政策）への対応として、畜産や果樹、野菜などを組み合わせた農業へと多角化が進みました。その結果、依然として米の比率は全国的に見て高いものの、畜産なども大きな割合を占める構成となっています。畜産が5割を超えるのは九州、野菜が4割を超えるのは関東などの特徴です。